

西部地区空き家解体補助
制度の創設民主市民ネット 小山 直子
おやま なおこ

質問 西部地区で景観を損ね
防犯の点でも大きな課題とな
っている空き家の解体に対す
る補助制度について聞きたい。

答弁 街並み景観や防災性の
向上、土地の流動化等を促進
するため、都市景観形成地域
内の老朽空き家を対象に解体
除去費の2分の1以内、30万
円を上限に24年度から2カ年
限定の制度を創設する。国の
基準による老朽度の審査など
一定の条件を設けるほか、解
体工事の施工は市内業者に限
定したい。（都市建設部長）

議案審査

提出された議案を本会議
や委員会で審査しました。
ここでは平成24年度の各会
計予算および関係条例の審
査を行った予算特別委員会
においての質疑の一部を掲
載しております。

函館市財産条例の一部改正に
ついて

答弁 通勤用自動車の公用使
用の承認を受けている者に係
る減免割合については、勤務

日のうちの3割の日で私有車
を公用使用しているという教
育委員会の実態調査等を勘案
し3割としたが、実際の公
用としての使用時間の割合が
明らかになるのであれば、実
態に合わせた減免割合につい
て、今後の検討の材料になる
ものと考えている。

北海道教育委員会から各学
校に配当されている旅費につ
いては、決して十分な額では
ないと認識しており、教育委
員会からは、北海道教育委員
会に対し、関係機関を通じて
全道的な規模でこれからも強
く要望していきたいというこ
とを伺っている。

減免の具体的な対象など、
駐車有料化制度の詳細につい
て定める要綱の策定について
は、本来であれば、条例と同
時に出すのがベターだとは思
っているが、有料化の実施を
7月1日としており、本条例
の議決をいただいた上で、そ
の執行までには、各セクショ
ンの意見や実情を十分にお聞
きしながら、定めていきたい
と考えている。

除雪の体制や予算にかかる
考え方について

答弁 今年 は記録的な大雪で

市民にはご迷惑をおかけした。
除雪費の過去10年間の状況を
見ると半分は予算が足り、半
分は予算オーバーとなってい
る。降雪量、気温など天気
に影響される予算であるが、今
年も含め、3年連続で除雪費
が増えている状況を勘案し、
平成24年度はパトロールを含
めた除雪マニュアルとそれに
対応する予算規模について、
十分検証するとともに、機材
不足や国道、道道との機材配
分などについて、見直しの協
議をしていく中で、予算が不
足する場合は速やかに除雪計
画に則った補正をしていき
たい。

また、除雪については、除
雪業者数や保有する機械に限
りがある中で、市内一斉に対
応することは困難なことから、
市民の協力が大変重要であり、
これまで以上に町会や民間団
体への除雪ボランティアの募
集や道路への雪出し防止の啓
発など、地域の皆さまと一体
となった除雪の取り組みに向
け、検討していきたい。

高齢者交通料金助成について

答弁 新たな高齢者交通料金
助成制度に6千円の上限を設
けることは、厳しい財政状況

や高齢者が増加していくとい
う中で制度を持続可能なもの
にするために必要と考えてお
り、現行制度の助成額が理論
値から計算され、乗車実績に
基づく支払いが行われていな
いことから、上限の範囲の中
で、助成券の利用実績に基づ
いて助成するものとした。

使用する乗車カードは、80
円のプレミアムがついた千円
のカードを予定しており、こ
のプレミアム分は、カード購
入時の前払いに対する付加価
値や円滑な運賃支払いに対す
る乗客へのサービスととらえ、
交通事業者とも十分協議の上、
交通事業者の負担としている。

また、現在、新たな制度で
利用する専用カードの発注を
交通事業者が進めており、障
害者等については4月1日か
ら専用カードが利用できるが、
高齢者のカードは、かなりポ
リウムが多く、製作が夏く
らいになるため、それまでは、
既存のカードで対応する予定
である。

制度の周知については、市
政はこだてに掲載したほか、
現在各町内会にチラシを送付
し回覧板での配付をお願いし
ているほか、現在利用証を持
つ高齢者へ助成券を送付する

際にはチラシを同封し、理解
していただくように努める。
さらに、販売店でも利用者に
説明できる状況にしたい。

制度実施後は利用状況の推
移などを見ながら、一定期間
実施後に検証を行い、この検
証も含め、随時、改善が必要
なものは改善し、より良い制
度にしていくこととしている。

仮称 日吉多目的グラウンドの
基本計画について

答弁 仮称 日吉多目的グラ
ウンドは、平成28年度からの
供用開始を目指し、サッカー
やラグビーの公式試合が可能
となる多目的グラウンドやジ
ョギングコースなどを整備す
るものであり、総事業費は、
旧北高校舎の解体撤去費、グ
ラウンドや夜間照明設備の整
備費などで約15億円と試算し
ている。

整備にあたっては、周辺住
宅へ配慮した施設配置をはじ
め、旧校舎等の解体撤去後の
土木工事や雨水処理などの重
要な課題が多くあることから、
専門性の高い計画の策定が必
要であり、平成24年度に専門
の設計者に基本計画調査業務
を委託したいと考えている。